

電気・精密機器

1. 評価対象企業（24社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（9社）

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、ルネサスエレクトロニクス、パナソニックホールディングス、ソニーグループ、ヤマハ

【電子部品部門】（7社）

ミネベアミツミ、ニデック（注）、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（8社）

富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、アドバンテスト、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）日本電産が商号を変更した（2023年4月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは76名（所属先31社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、フェア・ディスクロージャーおよびESG関連を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は76.7点（昨年度74.1点）、総合評価点の標準偏差は5.5点（昨年度7.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、精密機器部門（8社）が78.5点（昨年度75.5点）、産業・民生エレクトロニクス部門（9社）が77.2点（昨年度73.5点）、電子部品部門（7社）が74.0点（昨年度73.4点）となった。昨年度に比べ、精密機器部門および産業・民生エレクトロニクス部門が大きく上昇した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が77%（昨年度73%）、説明会等が77%（昨年度74%）、フェア・ディスクロージャーが86%（昨年度84%）、ESG関連が78%（昨年度75%）、自主的な情報開示が67%（昨年度65%）となり、5分野全てにおいて上昇し

た。

- ④ 評価項目について見ると、全 14 項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の項目および **ESG 関連**の中の 1 項目（下記⑥の(a)）が 80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- ・ 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 86%〔昨年度 84%〕）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：70%台 5 社・80%台 11 社・90%台 8 社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が 67%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 67%〔昨年度 65%〕）（得点率：50%台 6 社・60%台 8 社・70%台 8 社・80%台 2 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 5 項目は、次のとおりとなり、いずれも 75%以上の平均得点率となった。なお、(b)は本年度の新規項目である。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 78%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 14 社・90%台 2 社）
- (b) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」（平均得点率 77%）（得点率：60%台 3 社・70%台 13 社・80%台 7 社・90%台 1 社）
- (c) 「上記(a)(b)に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していますか」（平均得点率 77%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台 3 社・70%台 12 社・80%台 8 社・90%台 1 社）
- (d) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 76%〔昨年度 72%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 11 社・80%台 8 社・90%台 1 社）
- (e) 「(上記(a)~(d)の) ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率 78%〔昨年度 75%〕）（得点率：40%台 1 社・60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 11 社・90%台 3 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オムロン（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 9 回目〕、総合評価点 86.8 点〔昨年度比+1.3 点〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）、**ESG 関連**（92%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（94%）、**説明会等**が同得点第 6 位（83%）、**自主的情報開示**が第 7 位（73%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**を除く 3 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も高く評価された。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」も昨年度に比べ得点率を改善した。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、**ESG**が経営理念にビルトインされており、投資家への説明も十分に行われているとの声や、**ESG**データ集と統合報告書による開示内容が充実しているとの声が寄せられた。また、引き続き、新経営陣による IR への積極的な関与に期待したいとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が同得点第 1 位となった。また、「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」（同得点第 5 位）および「説明会資料等における開示」（同得点第 6 位）がいずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、短期業績だけでなく中長期的な戦略についても説明している点を評価する声や、決算説明会資料の利益増減要因の説明内容は年々改善しているとの声が寄せられた。なお、事業別の受注

動向などのデータの充実に期待する声や、資料に掲載するデータの継続性を望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価となった。これに関連して、社長交代会見の内容を評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、5 項目全てにおいて最も高い評価となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、ESG に関する開示内容は充実しており、KPI の設定についても評価できるとの声や、セグメント別にサステナビリティの目標と実績が開示されていることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 7 位となった。有益なイベントとして、ESG 説明会を挙げる声が多く寄せられた。なお、工場や開発拠点などの見学会の開催を期待する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日立製作所（総合評価点 84.9 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位（87%）、経営陣の IR 姿勢等（86%）、自主的情報開示（79%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（92%）、説明会等が同得点第 8 位（82%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連および自主的情報開示を除く 3 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 2 位）および「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 3 位）が共に 85%以上の得点率となり、高く評価された。これらに関連して、経営トップや CFO などとの対話の機会が継続的に提供されていること、経営方針が明確に示されていることを評価する声があったほか、市場との対話に対する経営トップの意識の高さを評価する声も寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 1 位となった。また、「説明会における開示」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これに関連して、補足説明資料が充実しているとの声や、セグメント別の財務指標の開示が豊富であるとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の第 3 位となった。これに関連して、メディア、アナリスト向けの質疑応答に相互に参加できることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、5 項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、人材開発、R&D、グリーン戦略など ESG において重要性の高い事項について説明会が開催され、それぞれの取組みについて紹介していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、Investor Day を挙げる声が多く寄せられ、Investor Day における社外取締役との対話、人財戦略説明などの企画を評価する声もあった。

第 3 位 富士フイルムホールディングス（総合評価点 83.7 点〔昨年度比+4.1 点〕、昨年度第 6 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 3 位（86%）、説明会等（84%）、自主的情報開示（78%）が第 4 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 5 位（90%）、経営陣の IR 姿勢等が第 7 位（83%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善したが、特に、説明会等の改善幅が大きかった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」が昨年度に比べ得点率を改善し、第 7 位（昨年度第 9 位）となった。これに関連して、当社の事業領域は多岐にわたるが、中長期的な経営分析も含め

た有益な議論を IR 部門との間でできるとの声や、ヘルスケア事業を前面に打ち出すなどして、コングロマリットでわかりにくい業務実態を理解できるように工夫していることを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップの企業価値向上への意識は高く、各種説明会で経営方針や中期経営計画について自ら情報発信している点の評価する声があった。

- ③ **説明会等**においては、4 項目全てが昨年度に比べ得点率を改善し、いずれも 80%以上の得点率となった。この結果、この分野において第 4 位（昨年度第 13 位）となった。これらに関連して、各事業・製品に対する投資家の理解を促進するために、継続的に各種説明会を開催し、資料の充実を行っていることを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 5 位（昨年度第 14 位）となった。これらに関連して、説明会資料、スクリプト、質疑応答などがウェブサイトに掲載されている点の評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（第 2 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 2 位）が、いずれも 90%以上の得点率となった。そのほかの 3 項目も 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG の各重点分野の長期目標と当社各事業との関連性を整理しわかりやすく投資家に伝えている、また、人的資本に関連する健康経営への取組みについてもわかりやすく解説しているとの声が寄せられた。また、サステナビリティレポートでは、地域、事業、物質別の開示が詳細で、環境法規制違反件数などのネガティブ情報の開示もされており信頼できるとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、電子材料事業説明会、バイオ CDMO 事業説明会などの各種事業説明会が挙げられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ アドバンテスト（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 82.2 点〔昨年度比+7.9 点、一昨年度比+0.6 点〕、第 5 位〔昨年度第 14 位、一昨年度第 8 位〕

- ① 同社は、**説明会等**が第 2 位（85%）、**自主的情報開示**が第 5 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（84%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 9 位（88%）、**ESG 関連**が第 12 位（79%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、第 5 位となった（昨年度比 9 ランクアップ）。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」が昨年度に比べ得点率を大きく改善し、第 3 位となった。また、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 部門は経営に関して議論する情報を十分に有しているとの声や、経営陣と投資家との対話の機会が充実しているとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 1 位となったほか、「説明会における開示」の 2 項目および「インタビュー等における開示」が、いずれも 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野においてトップと僅差の第 2 位となった。これらに関連して、説明会資料には十分な情報が網羅されているとの声や、市場見通しや競争環境などの説明を評価する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」（同得点第 9 位）は、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 4 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 8 位）が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG と企業価値拡大とをリンクさせて説明している点の評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 5 位となった。有益なイベントとして、技術説明会、サステナビリティ説明会を挙げる声が多かった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

○ **HOYA**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 79.9 点〔昨年度比+5.5 点、一昨年度比+4.6 点〕、第 8 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（86%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（92%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（85%）、ESG 関連が同得点第 14 位（77%）、自主的情報開示が第 23 位（53%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、第 8 位となった（昨年度比 5 ランクアップ）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 7 位）が 85%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが IR の重要性を認識し積極的に関与しているとの声や、IR 部門には十分な情報が集積され説明能力も高いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「インタビュー等における開示」が最も高い評価となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も同得点第 1 位となった。また、そのほかの 2 項目も共に、80%以上の得点率となったことから、この分野において第 1 位（昨年度同得点第 6 位）となった。これらに関連して、経営陣や IR 部門のコメントについて、率直で適切であり、また、ネガティブ情報も提供してくれるなど信頼感があるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、決算説明会のトランスクリプトだけでなく、機関投資家からの主な質疑応答の内容もウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 4 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 8 位）が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、統合報告書におけるコーポレートガバナンスの記載内容は理解しやすいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 23 位となった。有益なイベントとして、経営トップとのミーティングが挙げられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

（参考） 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 86.8 点、全体第 1 位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 80.2 点、全体第 7 位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 83.7 点、全体第 3 位）

以 上

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	86.8	30.7	1	16.5	6	4.7	1	27.6	1	7.3	7	1
2	6501 日立製作所	84.9	30.0	3	16.3	8	4.6	3	26.1	2	7.9	3	2
3	4901 富士フイルムホールディングス	83.7	29.0	7	16.7	4	4.5	5	25.7	3	7.8	4	6
4	8035 東京エレクトロン	82.5	30.1	2	16.5	6	4.4	9	24.0	7	7.5	6	4
5	6857 アドバンテクト	82.2	29.3	6	17.0	2	4.4	9	23.8	12	7.7	5	14
6	6758 ソニーグループ	82.1	29.4	5	15.4	13	3.9	20	25.3	4	8.1	2	3
7	6479 ミネベアミツミ	80.2	28.9	8	15.9	11	4.4	9	23.9	9	7.1	9	4
8	7741 HOYA	79.9	29.7	4	17.1	1	4.6	3	23.2	14	5.3	23	13
9	6724 セイコーエプソン	79.3	28.4	9	15.3	15	4.5	5	23.9	9	7.2	8	11
10	6981 村田製作所	78.7	27.5	11	16.9	3	4.3	13	23.6	13	6.4	14	7
11	7752 リコー	77.8	27.2	12	14.4	18	4.7	1	25.2	5	6.3	15	7
12	7951 ヤマハ	77.7	28.0	10	15.0	16	4.4	9	24.8	6	5.5	22	12
13	6963 ローム	76.7	25.5	17	16.3	8	4.1	19	24.0	7	6.8	12	16
14	6723 ルネサスエレクトロニクス	75.8	27.0	13	16.6	5	4.3	13	21.0	21	6.9	11	17
15	6752 パナソニックホールディングス	74.9	25.8	15	13.8	22	4.2	15	22.9	16	8.2	1	22
16	6762 TDK	73.6	25.6	16	16.1	10	4.2	15	22.7	17	5.0	24	15
17	7751 キヤノン	72.3	24.5	20	13.8	22	4.5	5	23.2	14	6.3	15	20
18	6594 ニデック	72.1	26.5	14	15.4	13	3.9	20	20.7	22	5.6	20	10
19	6701 日本電気	72.0	24.1	22	14.4	18	3.8	22	22.6	18	7.1	9	18
20	6702 富士通	71.1	24.4	21	13.2	24	3.7	24	23.9	9	5.9	19	9
21	6146 デイコ	69.9	25.2	19	15.8	12	4.5	5	18.3	24	6.1	17	19
22	6503 三菱電機	69.6	23.2	23	14.1	20	4.2	15	21.3	20	6.8	12	23
23	6988 日東電工	68.3	25.5	17	14.5	17	3.8	22	18.9	23	5.6	20	24
24	6971 京セラ	68.2	22.1	24	13.9	21	4.2	15	22.0	19	6.0	18	20
	評価対象企業評価平均点	76.68	26.99		15.46		4.28		23.27		6.68		

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	86.8	30.7	1	16.5	2	4.7	1	27.6	1	7.3	4	1
2	6501 日立製作所	84.9	30.0	2	16.3	3	4.6	2	26.1	2	7.9	3	2
3	6758 ソニーグループ	82.1	29.4	3	15.4	4	3.9	7	25.3	3	8.1	2	3
4	7951 ヤマハ	77.7	28.0	4	15.0	5	4.4	3	24.8	4	5.5	9	5
5	6723 ルネサス エレクトロニクス	75.8	27.0	5	16.6	1	4.3	4	21.0	9	6.9	6	6
6	6752 パナソニック ホールディングス	74.9	25.8	6	13.8	8	4.2	5	22.9	6	8.2	1	8
7	6701 日本電気	72.0	24.1	8	14.4	6	3.8	8	22.6	7	7.1	5	7
8	6702 富士通	71.1	24.4	7	13.2	9	3.7	9	23.9	5	5.9	8	4
9	6503 三菱電機	69.6	23.2	9	14.1	7	4.2	5	21.3	8	6.8	7	9
	評価対象企業評価平均点	77.22	26.96		15.03		4.20		23.95		7.08		

2023年度 ディスクロージャ評価比較総括表（電子部品部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6479 ミネベアミツミ	80.2	28.9	1	15.9	4	4.4	1	23.9	2	7.1	1	1
2	6981 村田製作所	78.7	27.5	2	16.9	1	4.3	2	23.6	3	6.4	3	2
3	6963 ローム	76.7	25.5	5	16.3	2	4.1	5	24.0	1	6.8	2	5
4	6762 TDK	73.6	25.6	4	16.1	3	4.2	3	22.7	4	5.0	7	4
5	6594 ニデック	72.1	26.5	3	15.4	5	3.9	6	20.7	6	5.6	5	3
6	6988 日東電工	68.3	25.5	5	14.5	6	3.8	7	18.9	7	5.6	5	7
7	6971 京セラ	68.2	22.1	7	13.9	7	4.2	3	22.0	5	6.0	4	6
	評価対象企業評価平均点	73.98	25.94		15.58		4.13		22.26		6.07		

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (精密機器部門)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	富士フイルムホールディングス	83.7	29.0	4	16.7	3	4.5	3	25.7	1	7.8	1	2
2	東京エレクトロン	82.5	30.1	1	16.5	4	4.4	7	24.0	3	7.5	3	1
3	アドバンテスト	82.2	29.3	3	17.0	2	4.4	7	23.8	5	7.7	2	6
4	HOYA	79.9	29.7	2	17.1	1	4.6	2	23.2	6	5.3	8	5
5	セイコーエプソン	79.3	28.4	5	15.3	6	4.5	3	23.9	4	7.2	4	4
6	リコー	77.8	27.2	6	14.4	7	4.7	1	25.2	2	6.3	5	3
7	キヤノン	72.3	24.5	8	13.8	8	4.5	3	23.2	6	6.3	5	8
8	ディスコ	69.9	25.2	7	15.8	5	4.5	3	18.3	8	6.1	7	7
	評価対象企業評価平均点	78.49	27.93		15.84		4.51		23.43		6.78		

2023年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションが出来ますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	6
②ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	6
③上記①、②に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか。	6
④資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
⑤上記①～④のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部会長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JPモルガン証券
	桂 竜輔	SMBC日興証券
	富井 喜隆	三菱UFJアセットマネジメント
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	三菱UFJモルガン・スタンレー証券

評価実施アナリスト（76名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	杉浦 徹	大和証券
秋月 学	野村証券	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
綾田 純也	JPモルガン証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
石田 重和	丸三証券	田中 秀明	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
和泉 美治	SBI証券	谷林 正行	QUICK
磯 光裕	野村アセットマネジメント	竹間 雅子	SOMPOアセットマネジメント
板倉 充知	SOMPOアセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	外崎 勝仁	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富井 喜隆	三菱UFJアセットマネジメント
内野 晃彦	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
浦 昌平	アムンティ・イン・ジャパン	中根 康夫	みずほ証券
江澤 厚太	シティグループ証券	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
大川 淳士	大和証券	仲田 育弘	マコーリーキャピタル証券会社
大野 剛	丸三証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大牧 実慶	立花証券	西平 孝	岡三証券
岡崎 優	野村証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	原嶋 悠也	SOMPOアセットマネジメント
小野 まな実	三菱UFJ信託銀行	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC日興証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	グレーム マクドナルド	シティグループ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道脇 祐介	三菱UFJ信託銀行
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
小宮 知希	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	森 貴宏	みずほ証券
斉田 健一	みずほ証券	安田 秀樹	東洋証券
佐々木 健太郎	シュローダー・インベストメント・マネジメント	山崎 雅也	野村証券
佐渡 拓実	大和証券	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山田 幹也	みずほ証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	山田 陽子	三菱UFJ信託銀行
鹿内 美欧	JPモルガン証券	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
芝野 正紘	シティグループ証券	横山 雄一	三菱UFJ信託銀行
嶋 龍真	野村アセットマネジメント	和田木 哲哉	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
下森 浩	三菱UFJ信託銀行	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFJ証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。